2025年3月

保護者等からの事業所評価の集計結果

重症児通所支援事業所キッズサポートこおりやま　　保護者数：　9　名

児童発達支援　　回収数：　6　名　　回収率：　66.7%

環境・体制整備		はい		どちらともいえない		いいえ	
①	子どもの活動等のスペースが十分に確保され ているか	6	67%	0	0%	0	0%
②	職員の配置数や専門性は適切であるか	6	67%	0	0%	0	0%
③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	67%	0	0%	0	0%
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境 となっているか。また、子ども達の活動に合わ せた空間となっているか	6	67%	0	0%	0	0%
適切な支援の提供							
⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画iが 作成されているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガ イドラインの「児童発達支援の提供すべき支 援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支 援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に選択され、その上で、具体的な支援内 容が設定されているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われて いるか	6	67%	0	0%	0	0%
⑧	活動プログラムiiが固定化しないよう工夫され ているか	5	56%	1	11%	0	0%
⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流 や、障害のない子どもと活動する機会がある か	6	67%	0	0%	0	0%
保護者への説明等							
⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な 説明がなされたか	6	67%	0	0%	0	0%
⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」のねらい及び支援内 容と、これに基づき作成された「児童発達支 援計画」を示しながら、支援内容の説明がな されたか	4	44%	2	22%	0	0%
⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレ ント・トレーニング等）が行われているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理 解ができているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に 関する助言等の支援が行われているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援され ているか	3	33%	0	0%	0	0%
⑯	子どもや保護者からの苦情について、対応の 体制を整備するとともに、子どもや保護者に 周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ 適切に対応しているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達 のための配慮がなされているか	6	67%	0	0%	0	0%

⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概 要や行事予定、連絡体制等の情報や業務 に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	6	67%	0	0%	0	0%
⑲	個人情報に十分注意しているか	6	67%	0	0%	0	0%
非 常 時 等 の 対 応							
⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアルを策定し、保護者に周 知・説明されているか	5	56%	1	11%	0	0%
㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出、その他必要な訓練が行われているか	5	56%	1	11%	0	0%
満足度							
㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	6	67%	0	0%	0	0%
㉓	事業所の支援に満足しているか	6	67%	0	0%	0	0%

公表：令和7年3月31日　児童発達支援　　事業所名　重症児通所支援事業所キッズサポートこおりやま

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		感染の拡大状況や利用児童に合わせて個室の確保等を実施している.	
	②	職員の配置数は適切である	8		一人の児童に対し、保育士、看護師、理学療法士いずれか職員が対応している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		駐車場、建物を含めて段差が無い造りとなっている。また玄関は屋根がついており、車からの乗降車の際は利用児やご家族も快適に利用している.	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		看護師が定期的に換気、温度、湿度管理を行っている。また次亜塩素酸による消毒等も行っている。	

			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		職員のミーティングやコミュニケーションを図り、問題解決や業務改善を行っている。	
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			日々、児童の様子を保護者様より伺い支援する上での視点を保護者と職員で確認、また今後の意向も考慮しながら行っている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価 表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行 うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ 等で公開している	8		マチコミやホームページ、Facebook、Instagram等で定期的な内容の開示を行っています。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8			今後実施していきたい。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		外部では医療的ケア児支援研修、内部で月に2回理学療法士や看護師によるポジショニング姿勢や蘇生などの研修を行っている。全員が研修に参加し自己研鎖に努めた。	

			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニ ーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		保護者との面談や支援会議を行い、保護者のライフスタイルと児童の発達に合わせ作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイド ラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の 「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容か ら子どもの支援に必要な項目が適切に選択さ れ、その上で、具体的な支援内容が設定されて いる	8			発達支援、家族支援、地域支援として、地域における保育、教育環境をスタッフで話し合いながら助言や相談を行っている。今後も継続し、密に関係機関と連携を図っていきたい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われてい る	8		都度、児童の様子に合わせ支援を行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		スタッフ全員がきちんと計画立案を理解し、話し合いを繰り返し行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		多職種が話合いを行いいろいろな視点から活動がマンネリしないよう提供している。	

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成 している	8			家庭で行うには難しいと思われることを考え経験が増えるよう、なるべく固定しないような新たなことを取り入れる工夫をしている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、そ の日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	8		朝のミーティングで必ず話し合い個々に合わせた支援の確認を全員で確認し、コミュニケーションを密に行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		支援終了後に、スタッフ全員で児童の様子を共有し、ご家族の要望等の報告や情報共有の徹底を行っている。	
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		ご家族からの連絡帳の記入に対して返信し、利用児の動きが見えるよう記録するよう心がけている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8			6か月に1度、評価・個別支援計画の見直しのため、ミーティングを行っています。

			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさ わしい者が参画している	8			児童発達管理責任者もしくは、直接支援者のスタッフが出席しています。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っている	8			
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている	8			郡山市の医療的ケア児の支援チームとの連携を図り、今後も状況把握や発達状況に合わせた支援の見直しや連携、また多くの見学希望の方々を受け入れ悩み等を伺っている。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制 を整えている	8			個々の主治医や医療機関一覧表を看護師が中心となって作成し、連絡体制を整えている。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	6		利用児童の状況にもよるが感染対策等を考慮し、今後実施していく予定。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小 学部）との間で、支援内容等の情報共有と相 互理解を図っている	2	6		対象児がいなかったため、実施していない。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事 業所、発達障害者支援センター等の専門機関 と連携し、助言や研修を受けている	7	1		他の児童発達支援センター訪問などを行い、児の状況の把握や連携を図りながらおこなっている。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	8			公園などで交流できるよう接する機会を持っていく予定。
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ど も・子育て会議等へ積極的に参加している	8			放課後等デイ連絡会の参加等、順番に職員も参加し、他事業所の様子を伺い情報交換の場としている。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	8			保護者から最近の様子や利用日の様子を細かく伺い、課題や理解を深めている。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム（ペアレント･ト レーニング等）の支援を行っている	8			保護者会での相談や連絡帳による相談対応により実施を継続していきたい。

			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	㉜	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			契約時に丁寧な説明をしているが、それ以降も行事や年度の変わりで説明し納得いただけるよう努めている。

保護者への説明責任等	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、こ れに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から 児童発達支援計画の同意を得ている	8			可能な限り必要な助言や支援を行っています。さらに公認心理師による相談も行っています。
	㉞	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			連絡帳に記入されたことや、保護者から直接話を聞いてほしいとの要望には丁寧に答えている。
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援し ている	8		年に1度、保護者会を開催し事業所だけでなく家族同士の交流も時間を取り連携を図っていただいています。	
	㊱	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	8			連絡帳に記入されたことや、保護者から直接話を聞いてほしいとの要望には丁寧に応えている。
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	8		マチコミメールを始めたため、タイムリーな情報を発信し、活用している。	定期的なお知らせも配布している。
	㊳	個人情報の取扱いに十分注意している	8			個人ファイルは鍵付きの保管庫にて管理し、取り扱いには十分に注意している
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8		児童は身体で反応し意思疎通を表現をすることが多いため見逃さないよう、全身を注意深く観ている。	
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	7		今後は検討していきたい。

			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	8			救急搬送時等、フローチャートでの動きのシュミレーションを今後はより頻回に行い子どもたちの生命の保持に努めていきたい。
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		様々な避難を想定し訓練を実施。防災会社より消火器の使い方等を習いながら児童も一緒に取り組んでいる。	
	㊸	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	8		保護者から聞き取りをし、児童フェイスシートを記入していただき、その後家族から看護師が確認の聞き取りを行っている。処方箋と医師からの指示書とおり実施している。	看護職対応。薬の指示があるお子さんが多いことから投与時は、看護職のダブルチェックを行い飲み忘れ、確認不足等が無いよう名札等をつけ明確にしている。
	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		アレルギーの児童は間違いを起こさないようダブルチェックや声出し確認、食器をほかの児童と変更するなどの工夫を行っている。	
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	8			ヒヤリハットの用紙を回覧し、スタッフで改善方法の話合いを行っている。
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	8		年に1回以上の法人全体研修と事業所内全体で実施しています。	
	㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかに ついて、組織的に決定し、子どもや保護者に事 前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			身体拘束はいたしません。今後必要性がある場合はご家族、職員で話し合いを持ちます。